

ensemble NOVA

冬のコンサート

ヨハン・クリスティアン・バッハとモーツァルト

世代を越えた友情物語

Programm

ヨハン・クリスティアン・バッハ／「ラ・カミータ」序曲

モーツァルト／ピアノ協奏曲第12番 イ長調 KV414

フランツ・シュトラウス／ノクターン Op.7

モーツァルト／オーボエ協奏曲 ハ長調 KV314

モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」より

ケルビーノのアリア「自分で自分がわからない」

ケルビーノのアリア「恋とはどんなものかしら」

ヨハン・クリスティアン・バッハ／シンフォニア 変ロ長調Op.18-2

ホルン：水野信行

ピアノ：小宮山 愛

オーボエ：柳沢実花

メゾソプラノ：加藤文絵

指揮：加藤 晃

オーケストラ：ensemble NOVA

2013
2/24
(Sun)

13:30開場

14:00開演

世代を越えた友情物語

大バッハ(ヨハン・セバスティアン・バッハ)の末息子であるヨハン・クリスティアン・バッハはドイツを飛び出してミラノやロンドンで活躍した作曲家です。

1764年、父レオポルドに連れられてロンドンを訪れていた少年モーツァルトはヨハン・クリスティアン・バッハと知り合い、二人は年の差を超えて仲良しになり、当時30歳だったヨハン・クリスティアンは幼いモーツァルトを膝の上に寄せ、一緒にピアノを弾いて遊んだそうです。

モーツァルトはヨハン・クリスティアンの音楽から大きな影響を受け、いつも尊敬していました。実際、モーツァルトの音楽はヨハン・クリスティアンの音楽にそっくりなのです。

モーツァルトは1782年にヨハン・クリスティアンの訃報を聞いて、いつも優しくあった大好きな年上の友人の死を嘆き悲しみました。そして、その頃モーツァルトは、ピアノ協奏曲第12番 KV414を作曲しており、その第2楽章は、ヨハン・クリスティアンの『ラ・カミータ』序曲の中に現れるメロディを使って書かれています。この緩やかな美しい楽章は、ヨハン・クリスティアンに対する追悼の意図であったと思われる、モーツァルト作品の中でも極めて重要な意味を持つ音楽です。



Akira KATO



Nobuyuki MIZUNO



Ai KOMIYAMA

長野市若里市民文化ホール

入場料(全席自由) 一般・前売券 1,500円
一般・当日券 2,000円
高校生以下 1,000円

※曲目および出演者は予告なしに変更する場合があります。

後援：長野市教育委員会・公益財団法人 八十二文化財団・信濃毎日新聞社
プレイガイド/ながの東急、ヒオキ楽器、美鈴楽器、浅井管楽器工房、上田琴光堂
お問合せ・マネージメント/小出音楽事務所 Tel.026-223-5171



Fumie KATO



Mika YANAGISAWA